

# 外国語科（英語コミュニケーションⅠ）学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日(〇)  
第6校時 14:10～15:00  
対 象 第1学年1組 40名  
学校名 高等学校  
授業者 〇〇 〇〇  
会 場 教室

## 1 単元名

Lesson1 “Intercultural Relationships” *ELEMENT English Communication I*

## 2 単元の目標

エリザ・シドモアとワシントンの桜についての要約と自分の意見を話したり書いたりするために、物語を読み、概要や要点を捉えることができる。

## 3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
・文章を読むために必要となる語彙や表現を理解している。 ・エリザ・シドモアとワシントンの桜についての文章を読み取る技能を身に付けている。	エリザ・シドモアとワシントンの桜についての要約と自分の意見を話したり書いたりするために、物語を読み、概要や要点を捉えている。	エリザ・シドモアとワシントンの桜についての要約と自分の意見を話したり書いたりするために、物語を読み、概要や要点を捉えようとしている。

## 4 指導観

### (1) 単元観

本単元は、高等学校学習指導要領（平成30年3月）第2章、第8節 外国語、第2款 各科目、第1 英語コミュニケーションⅠ、1 目標、(2) 読むこと、

ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。

2 内容、〔思考力、判断力、表現力等〕、(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項、

ア 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に捉えたり、自分自身の考えをまとめたりすること。

を受けて設定した。

米国ワシントンに日本の桜が植えられた経緯とエリザ・シドモアの関わりについて読み取り、あらすじを口頭で伝えたり、要約文を書いたりするために必要な概要や要点を捉えることを目標とした。

## (2) 生徒観

授業を通して英語をコミュニケーションツールとして身に付けることへの関心や意欲が総じて高く、学習に積極的に取り組む姿勢が見られる。しかしながら、中学卒業時までの学習習慣や内容に差異があることから、特定の技能に苦手意識をもつ生徒もいる。生徒が互いに助け合うことで学び合えるよう、指導手順や活動方法を工夫し、授業規律を保ちながら、積極的に活動に臨む態度を育むことが肝要な時期である。また、授業と自学の関連性を高め、学習習慣の形成を促すとともに、生徒が自らの学びを実感できるようにする。

## (3) 教材観

使用教科書は4技能5領域をバランスよく学習できるよう配慮され、英文の導入から読解、発信活動までを見据えた構成になっている。Lesson 6までの英文は見開きページに収められ、生徒が文章全体を俯瞰できるようになっており、新出語句の記載がないので、生徒が語彙や文法の知識を含めた自分自身の読む力を把握しやすい。受信と発信の技能を身に付けることができるよう、本文の概要や要点を捉えるための問題や再話活動に使用できる視覚資料が用意されている。単元ごとのトピックに対して、生徒が様々な観点から掘り下げて考え、自分の意見を伝える活動を取り入れることで、思考力・判断力・表現力を養うことができる。

## 5 年間指導計画における位置付け

学期	単元名	学習内容
第1学期	Lesson 1 Intercultural Relationships	題 材：異文化交流・女性 言語材料：5文型，受動態，to不定詞 言語活動：「読むこと」
	Lesson 2 Love beyond Species	題 材：動物・友情 言語材料：現在完了形／現在完了進行形，分詞 言語活動：「話すこと（発表）」
	Lesson 3 Contributing to Our Planet	題 材：環境・社会貢献 言語材料：関係代名詞，使役動詞 言語活動：「話すこと（やり取り）」
	Lesson 4 Messages for World Peace	題 材：戦争・平和 言語材料：過去完了形，知覚動詞 言語活動：「読むこと」
	Further Reading 1 Toward Sustainable Development Goals	題 材：現代社会 言語活動：「聞くこと」
	Lesson 5 Respecting Each Other	題 材：スポーツ・人間愛

第 2 学 期		言語材料：関係代名詞の <b>what</b> , 関係副詞 言語活動：「読むこと」
	Lesson 6 Language and Culture	題 材：言語・文学 言語材料：関係代名詞の非限定用法, 分詞構文 言語活動：「聞くこと」
	Lesson 7 Technology and Discoveries	題 材：科学技術・医学 言語材料：形式主語の <b>it</b> , <b>be</b> 動詞の補語になる <b>that</b> 節 言語活動：「話すこと（発表）」
	Lesson 8 Standing Up for Human Rights	題 材：人権・スポーツ 言語材料：仮定法過去／仮定法過去完了 言語活動：「書くこと」
第 3 学 期	Further Reading 2 Pictures without Shadows	題 材：芸術・女性 言語活動：「読むこと」

## 6 単元の指導計画と評価計画

以下、表中「○」が付されている時間はワークシートの学習状況や考査答案を記録に残す。

	目標	学習内容・学習活動	評価規準(評価方法)		
			ア	イ	ウ
第1時	エリザ・シドモアについて書かれた物語文の概要を理解することができる。	導 入：chat, oral interaction 展 開：英文読解 まとめ：概要把握	一斉に記録に残す評価は行わないが、生徒の活動状況を見取り指導に生かす。		
第2時	エリザ・シドモアの経歴と桜に興味をもった経緯を理解することができる。	導 入：目標の確認 展 開：要点把握、音読 まとめ：retelling			
第3時	物語前半部分の要点を捉え、それに対する自分の考えを交えて発表することができる。	導 入：chat 展 開：retelling、要約 まとめ：振り返り、表現活動		○	○
第4時 (本時)	ワシントンに桜が植樹されるまでの経緯とワシントンの桜の意義について理解することができる。	導 入：目標の確認 展 開：要点把握、音読 まとめ：retelling	第1時および第2時と同様。		
第5時	物語後半部分の要点を捉え、それに対する自分の考えを交えて発表することができる。	導 入：chat 展 開：retelling、要約 まとめ：振り返り、表現活動		○	○

第6時	物語全体の要点を捉え、エリザ・シドモアの視点に立って手紙を書くことができる。	導入：chat 展開：全文の要約 まとめ：writing、振り返り		○	○
後日	定期考査		○	○	

<「読むこと」の評価について>

(1) 定期考査問題作成上の留意点

- ・ 生徒が初めて読む英文を用いて作成する。
- ・ 学習した内容と関連のある話題について、教科書で扱っている文章の構成を基に作成する。
- ・ 可能な範囲で、教科書で扱った言語材料を使用する。
- ・ 「知識・技能」を評価する問題と「思考・判断・表現」を評価する問題とを区別する。
- ・ 選択式の問題と記述式の問題を作成する。記述式の問題では、要点をまとめるだけでなく自分の意見やその理由を書かせる。

(2) 評価について

- ・ 「知識・技能」については、教科書本文で用いられた語彙や表現、文法事項を正しく理解しているかどうかを評価する。
- ・ 「思考・判断・表現」については、書き手の意図を把握したり、必要な情報や概要・要点を捉えたりしている状況から評価する。
- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」については、振り返りやワークシートの内容から見取り、「思考・判断・表現」と一体的に評価する。
- ・ 「思考・判断・表現」および「主体的に学習に取り組む態度」を育成する活動として、授業では第3時、第5時、第6時に、本文を前半、後半、全文の3段階に分けて要約文を書かせる。また、手紙を書く活動では、エリザ・シドモアの桜に対する想いを理解したことを踏まえて、読み手にその気持ちが伝わるように意識させる。いずれの場合も、回収したワークシートから、要点を捉えることができているかどうかやエリザ・シドモアの想いを捉えられているかといった「読むこと」の力を見取り、ルーブリックを用いて評価する。

7 指導に当たって

(1) 授業形態

- ア 場面に応じてペアワークやグループワークを活用し、生徒同士で考えを交換し合うことで、他者からの気付きによって学びが深まるようにする。
- ウ 座席やペアの組み方を工夫し、生徒が誰とでもコミュニケーションをとれるように、また異なる多くの考え方に触れられるようにしている。

(2) 教材の工夫

- ア 写真などの視覚情報を与えることで、英文読解への動機付けや英文理解の補助を行う。
- イ デジタル教科書やスライドを活用し、生徒の活動時間を多く設定できるようにする。

ウ ワークシートは、学習内容を定着させるのに必要なものに絞って作成し、生徒が管理しやすいようにする。

(3) 指導の工夫

ア 教員の使用する英語が生徒の英語使用のモデルとなるように心掛ける。

イ 4技能5領域の様々な言語活動を年間でバランスよく配置し、技能・領域を統合した活動を適切に取り入れ、生徒の言語運用能力を高めるようにする。

ウ 言語が使われる場面や状況を意識した表現活動を設定するようにする。

エ 生徒が自立した学習者となるよう、学習の目標を明確にしたり、自分の取り組みを振り返ることなどで自己を冷静に見つめる力を高めたりして、自らの学びを調整する力を育てるようにする。

8 本時（全6時間中の第4時）

(1) 本時の目標

ワシントンに桜が植樹されるまでの経緯とワシントンの桜の意義について理解することができる。

(2) 本時の展開

時間	○ 学習内容 ・ 学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 2 分	○ 本時の目標 ・ 本時の目標を認識する。	・ 目標を確認させ、主体的に取り組む意欲を引き出す。	
	ワシントンに桜が植樹されるまでの経緯とワシントンの桜の意義について理解する。		
展開 40 分	○ Listening ・ Scene3 を聞き、内容を振り返る。  ○ Comprehension through interaction ・ 教科書を閉じて、教師の質問を聞く。 ・ ペアで答えを確認し合う。  ・ 教師の質問に英語で答える。  ○ Listening ・ Scene4 を聞き、内容を振り返る。  ○ Comprehension through interaction ・ 教科書を閉じて、教師の質問を聞く。 ・ ペアで答えを確認し合う。	・ 生徒が英語で応答するように促す。  ・ 生徒の発言の良い点を共有する。  ・ 生徒が英語で応答するように促す。	一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて、指導に生かすことは毎時間行う。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の質問に英語で答える。</li> </ul> <p>○ Reading Aloud</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Chorus Reading</li> <li>Buzz Reading</li> <li>Parallel Reading</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の発言の良い点を共有する。</li> <li>生徒がうまく発音できていない箇所があれば、繰り返し練習させる。</li> </ul>	<p>一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて、指導に生かすことは毎時間行う。</p>
まとめ 8分	<p>○ Story Retelling</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キーワードを選ぶ。</li> <li>ペアで発表する。</li> </ul> <p>○ 教師のコメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プリントを配布し、キーワードを記入させる。</li> <li>本時の取り組みについてコメントし、生徒の達成感を引き出すとともに、次回の授業への見通しを持たせる。</li> <li>内容理解確認のための復習プリントを配布する。</li> </ul>	

(2) 板書計画

スライド投影

(3) 授業観察の視点

- ア 生徒は、目標をもって主体的に言語活動に取り組んでいたか。
- イ 生徒は、他者から気付きを得て自分の自らの考えや表現を改善したり内容理解を深めたりしていたか。
- ウ 授業者からの質問や補足説明により、生徒は内容を的確に捉えていたか。